



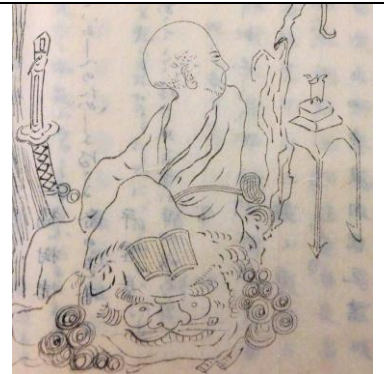
名古屋の偉人伝

No.13

内藤東甫(ないとうとうほ)の巻

ここがスゴイ!

尾張の博物誌『張州雑誌』を編集した。
80歳以上の文化人9名を招いた「尚齒会」を主催。



『張藩尚齒会』より

こんな人生を送ってきました(経歴)

享保 13(1728)年名古屋に生まれる。通称は浅右衛門、本名は正参、東甫は字である。閑水・朽庵・泥江陰士などと号した。絵画を得意とし、親しかった俳人横井也有(よこいやゆう)とよく合作をした。枯れ木や古器物を集める趣味があり、風流を好んだ。

負債を抱え、中元の時期に催促された際、「うかうかと心も空になりにはけり外はぼんてん内はたいしゃく」と狂歌を詠んだ。(※梵天の梵と盆、帝釈と貸借をかけている。)

安永年間(1772~1781年)を中心に、尾張の旧跡・名所・産物などについて述べた『張州雑誌』を編集した。東甫による鮮やかな動植物の絵図を多数収録している。

安永 10(1781)年、名古屋城南の長栄寺に80歳以上の文化人を招き、尚齒会(しょうしかい)を開催、記念に『張城尚齒会』(『張藩尚齒会』)を刊行した。天明 4(1784)年の飢饉の際には絵を描いて売り、得た費用で困窮した人々を救った。天明 8(1788)年 8月5日亡くなった。

もっとくわしく知りたいあなたに(参考文献)

- 『名古屋市史[第11]』(名古屋市／編 愛知県郷土資料刊行会 1980年)
- 『尾張史料のおもしろさ原典を調べる』(名古屋市博物館／編 名古屋市博物館 2004年)
- 『なごや本綴足』(市橋鐸／著 名古屋市教育委員会 1969年)
- 『図説中京書家画人考』(服部徳次郎／著 服部徳次郎 1974年)
- 『張藩尚齒会』(名古屋市史編纂資料 請求記号:市7-148)